

守ろう秋田のゼニタナゴ

ゼニタナゴとは

ゼニタナゴは日本固有種で、体長8cmほどのコイ科タナゴ亜科の淡水魚です。もともとは湖沼や大河川を生息域としていたようですが、河川改修、埋め立て、干拓などで追いやられ、一部の溜め池や用水路などで生き残ってきました。しかし、都市化の波が進むなど生息環境が狭められ、さらにオオクチバスなどの外来種の脅威も加わって激減したと思われます。かつては関東以北に分布していましたが、今では東北の4県だけになっています。しかも生息数が少なく、いつ絶滅してもおかしくない状況です。そのため、環境省と秋田県で、絶滅の危険性が最も高い絶滅危惧ⅠAに指定しています。

ゼニタナゴは、ドブガイなどの二枚貝に卵を産み付ける方法で繁殖します。産卵は秋で、9～11月頃に行われます。貝の中に産みつけられた卵は1～2日で孵化し、仔魚の形で約8カ月間貝の中で過ごします。6月頃に稚魚となり、やっと貝から出てきます。稚魚期以降の成長は早く、9月の産卵期には体長5～8cmの成魚となって繁殖を行います。一部は翌年まで生き残るものの、多くは1年で生活史を完結すると考えられています。



絶滅危惧種のゼニタナゴ

ゼニタナゴの保全活動

大森山動物園内の自然の沼、塩曳潟（しおひきがた）は、現在もゼニタナゴが生息する貴重な場所です。動物園には、年間を通して職員が常駐しています。このことが利点となり、ゼニタナゴの保全に役立ってきたのではないのでしょうか。

ただ、近年、塩曳潟に侵略的な外来生物のアメリカザリガニが入り込んでいます。ザリガニは、ゼニタナゴの母貝のドブガイを掘り起こしたり、食べてしまいます。事実、平成16年の調査では大型のドブガイは確認されたものの、ゼニタナゴが産卵する小型のドブガイはほとんどみつかりませんでした。このままでは、塩曳潟からもゼニタナゴが姿を消してしまいます。そこで大森山動物園では、秋田淡水魚研究会や市民ボランティアの協力をいただき、平成18年に塩曳潟のほとりに保護池を作り、ゼニタナゴとドブガイを隔離して保護する事にしました。

あくまで緊急的な措置ですが、平成19年秋には、春に稚魚で採捕し、保護池で育てた成魚100匹を塩曳潟に放流しました。さらに、平成20年春には、保護池で生まれた稚魚約500匹を確認しました。この保護池はドブガイ増殖の役目も果たし、平成19年には、池の中で当年産とみられるドブガイ11個が確認されています。

また、保全活動の一環として、ザリガニの駆除も実施しています。広い水域に入り込んだザリガニの根絶は困難ですが、少しでもその影響を低減させたい思いで取り組んでいます。当面、保護池のゼニタナゴ確保とザリガニの駆除、さらに塩曳潟のモニタリングを平行して進めていきたい、と考えています。

ゼニタナゴがいる塩曳潟



保全活動の公開

通常、絶滅危惧種の生息地などの情報は秘匿にされます。それは、公開することで生息地が荒らされるなど、悪影響を懸念するからです。しかし、大森山動物園では、ゼニタナゴの保全活動をホームページ上などで公開しています。これは、生息地が公園地内にあるなど、管理上の利点を考慮し、秘匿するよりも積極的に公開することで、ゼニタナゴの保全活動を効果的に推し進めようと考えているからです。

豊かな自然環境

塩曳潟周辺には、稀少種を始め多くの生物が生息しています。多様な生物相は、自然環境の豊かさの証しです。ゼニタナゴの保全は、豊かな自然環境の保全にもつながるのです。



ホームページの画像

塩曳潟周辺の生物



シナイモツゴ（環境省：絶滅危惧ⅠA）
（秋田県：絶滅危惧ⅠA）



アカヒレタヒラ（環境省：絶滅危惧ⅠB）
（秋田県：準絶滅危惧種）



トウヨシノボリ



ヒメギフチョウ（環境省：準絶滅危惧）
（秋田県：留意種）



モリアオガエル



シラネアオイ（秋田県：準絶滅危惧種）



タナゴとドブガイ

1. ゼニタナゴ保護池

秋田淡水魚研究会や市民ボランティアの協力により、塩刈潟のほとりにゼニタナゴと母貝のドブガイを隔離して保護する保護池を作製。(日本動物園水族館協会の野生動物保護基金の助成による)



ゼニタナゴ保護池

2. 天敵退治

市民や地域の子どもたちと協働でアメリカザリガニの駆除を実施

- ・秋田市西部公民館との共催事業「ザリガニやつつけ隊」
- ・秋田青年会議所の活動「環境保護運動ーザリガニ釣りー」
- ・秋田市立浜田小学校の活動「ゼニタナゴ守り隊」



ザリガニやつつけ隊の活動

3. モニタリング (水生生物調査など)

- 平成12年 塩刈潟で水生生物調査実施、アカヒレタビラ、シナイモツゴ等確認。
- 平成15年 アカヒレタビラ、シナイモツゴに加え、ゼニタナゴ確認。
- 平成16年 シナイモツゴ確認するもゼニタナゴ確認できず。
- 平成17年 ゼニタナゴ再確認。
秋田県自然保護課による大森山公園・動物園の環境調査(植生と水生動物等)実施。
- 平成18年 保護池を作製し、採捕したゼニタナゴ、ドブガイを放流。シナイモツゴ確認できず。
- 平成19年 タナゴ稚魚採捕、保護池で養育後、マーキングして放流。保護池でドブガイ稚貝確認。
- 平成20年 保護池内でタナゴ稚魚を多数確認。



保護の大切さを共感



マーキングしたゼニタナゴ

ゼニタナゴ保全のための普及活動

1. ジャズフェスティバル (2006,2007)

夏の夜間開園時に開催したジャズコンサートに合わせ、ゼニタナゴ保護活動の普及のための展示を実施。



コンサート会場の横でゼニタナゴのスライド上映

2. シンポジウム (2008)

ゼニタナゴの生態と保全のありかたなどに関する専門家の講演と討論会を通じて、参加者に自然との共存について考えてもらうことを目的に開催。



ゼニタナゴ・シンポジウム

秋田市大森山動物園ミルヴェ

〒010-1654 秋田市浜田字潟端 154 TEL.018-828-5508 FAX.018-828-5509

このチラシは、(社)日本動物園水族館協会の野生動物保護基金で作成しました